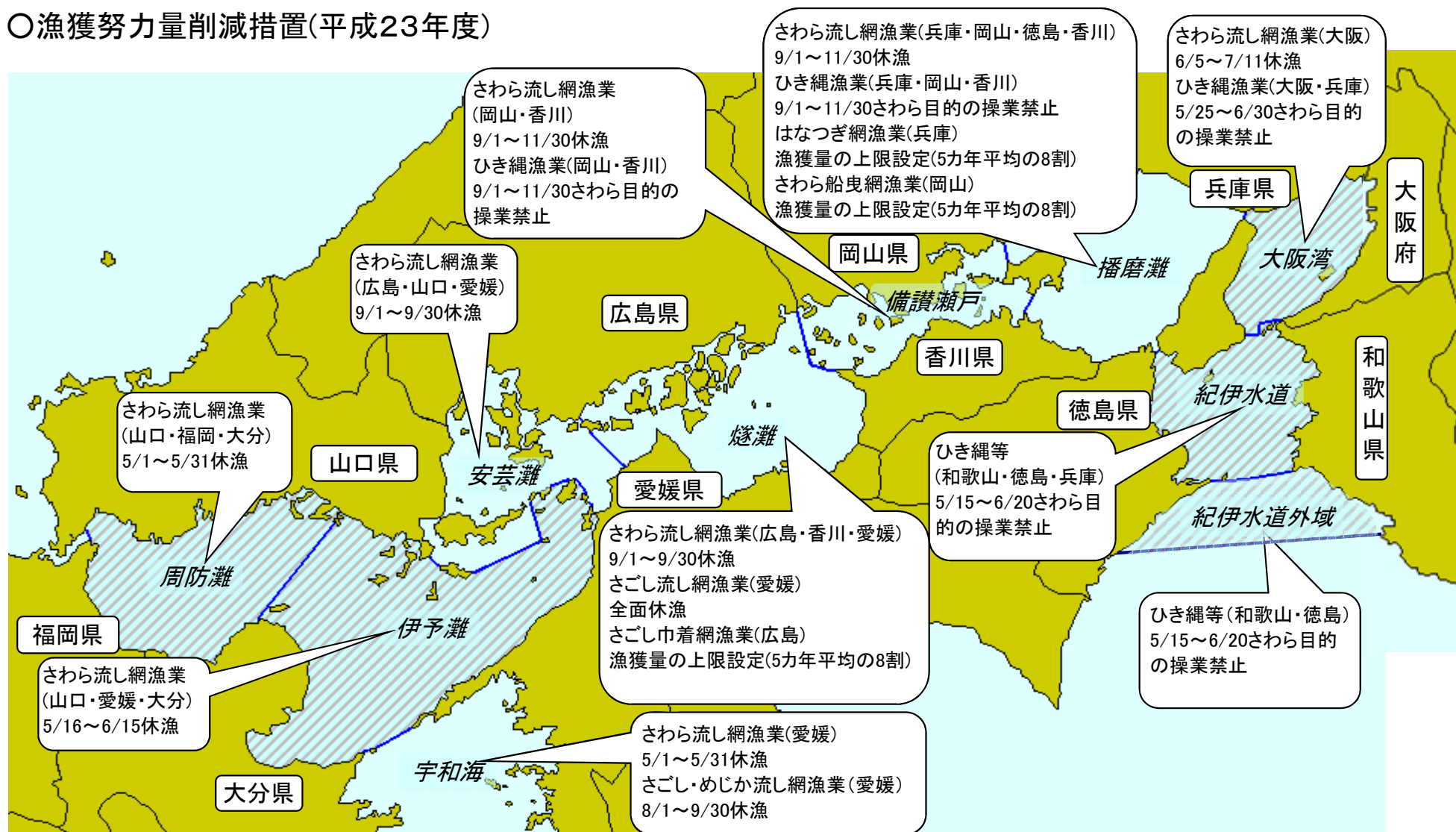


平成 2 3 年度 サワラ瀬戸内海系群資源回復計画の取組

# ○漁獲努力量削減措置(平成23年度)



※斜線部分は、春漁を規制  
※さわら流し網の目合い10.6cm以上(瀬戸内海全海域共通)

(参考)資源回復等推進支援事業の内容  
大阪、香川、愛媛 : 休漁漁船活用支援事業

○サワラ種苗生産・中間育成の取組状況(平成23年度)



## 平成23年度 サワラ種苗生産・中間育成等の取組状況一覧

### ① 採卵

	月 日	採卵海域	受精卵	使用した親魚	協力漁協等
香川県	5月 9日	播磨灘南西部	60.7万粒	雄 7・雌 6	香川県鱈流し刺網協議会
	10日	播磨灘南西部	36.2万粒	雄 5・雌 3	〃
	11日	播磨灘南西部	16.7万粒	雄 3・雌 3	〃
	25日	播磨灘南西部	51.9万粒	雄 6・雌 3	〃
愛媛県	5月22日	燧灘西部	65.0万粒	雄11・雌 5	河原津漁協
	24日	〃	24.0万粒	雄 6・雌 2	〃
	25日	〃	36.0万粒	雄 3・雌 3	〃

### ② 種苗生産

	場 所	期 間	生産尾数	平均全長	備考
(独)水産総合センター	瀬戸内海区水産研究所	25日間(5/13～6/ 6)	97,471	40mm	
	屋島庁舎	25日間(5/14～6/ 7)	45,575	34mm	
〃	瀬戸内海区水産研究所 伯方島庁舎	33日間(5/28～6/29)	20,000	48mm	
大阪府	環境農林水産総合研究所 水産技術センター	5/16～			※

※：大阪府水産技術センターにおいては、同一水槽において種苗生産～中間育成をおこなった為、放流尾数のみ記載。

### ③ 中間育成

	場 所	期 間	受入尾数	平均長	備考(協力漁協等)	
瀬戸内海	合 計		183,432			
東 部	小 計		163,432			
大阪府	阪南市地先 水産技術センター	15日間(6/11～6/25)	22,000	38mm	大阪府漁連サワラ流網漁業管理部会 ※	
	兵庫県	洲本市五色町鳥飼地先	12日間(6/ 6～6/17)	8,671	40mm	五色町漁協
		洲本市五色町都志地先	12日間(6/ 6～6/17)	8,599	40mm	〃
		姫路市家島町地先	9日間(6/ 6～6/14)	12,000	40mm	坊勢漁協
岡山県	備前市日生町地先	15日間(6/6～6/20)	15,191	40mm	日生町漁協	
香川県	さぬき市小田地先	18日間(6/ 7～6/24)	77,466	34mm	(財)香川県水産振興基金	
	高松市女木町地先	14日間(6/ 7～6/20)	15,473	40mm	女木島漁協・香川県鱈流し網協議会	
	東かがわ市引田地先	10日間(6/ 6～6/15)	4,032	40mm	引田漁協	
西 部	小 計		20,000			
広島県	呉市音戸町波多見地先	17日間(6/29～7/15)	5,000	49mm	呉芸南水産振興協議会	
愛媛県	今治市大浜地先	23日間(6/29～7/21)	10,000	49mm	大浜漁協・(財)えひめ海づくり基金	
大分県	大分市地先	17日間(6/29～7/15)	5,000	49mm	大分県漁協大分支店	

※：大阪府水産技術センターにおいては、同一水槽において種苗生産～中間育成をおこなった為、放流尾数のみ記載。

④放流

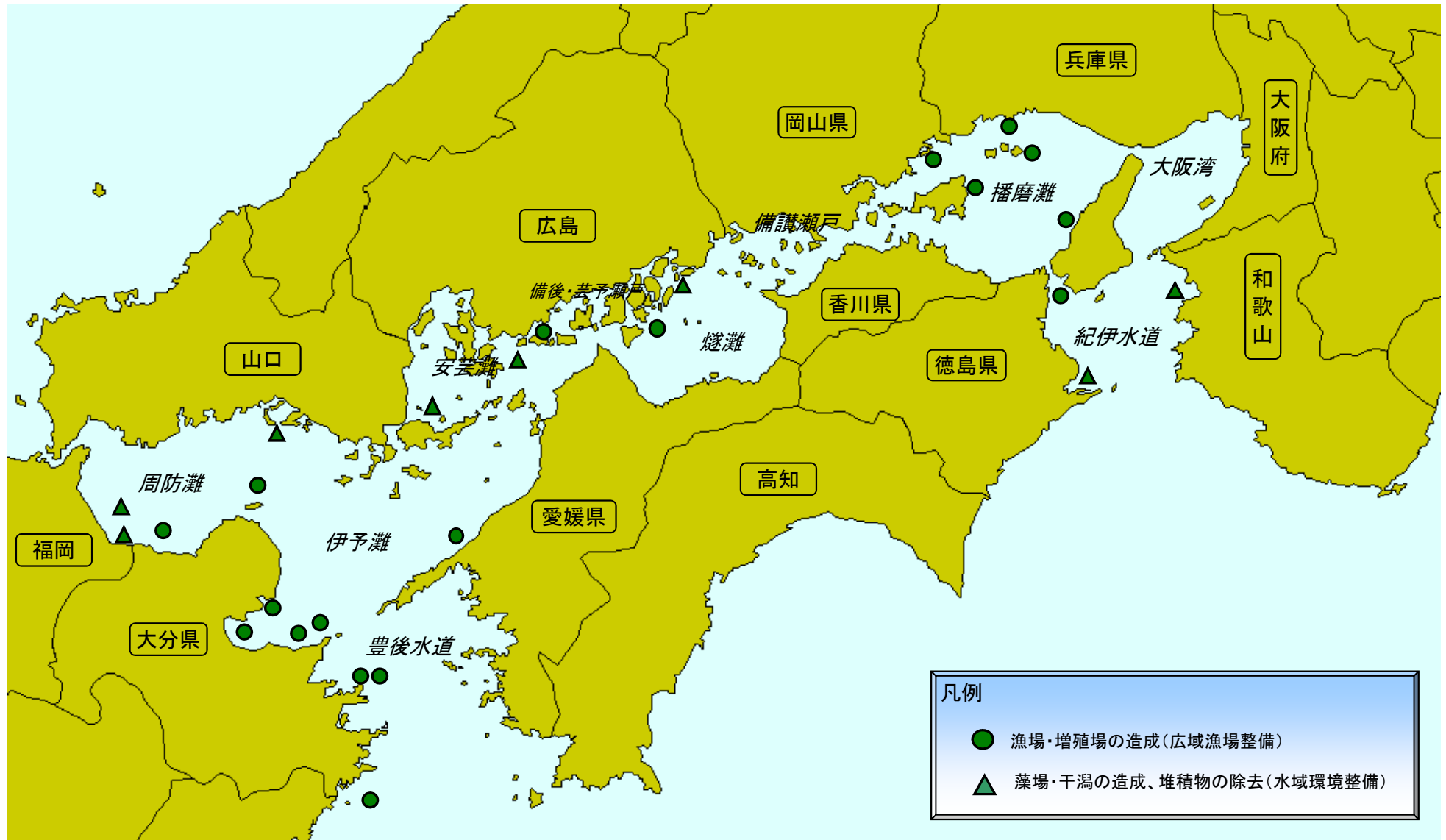
	放流場所	放流月日	放流尾数	平均長	備考（協力漁協等）
瀬戸内海	合計		134,215		
東 部	小 計		126,525		
大阪府	貝塚沖・関空沖	6月25日	16,000	92mm	大阪府漁連サワラ流網漁業管理部会
	泉南郡岬町多奈川谷川地先	6月25日	7,400	93mm	水産技術センター
兵庫県	洲本市五色町鳥飼地先	6月17日	5,705	75mm	五色町漁協
	洲本市五色町都志地先	6月17日	6,475	75mm	〃
	姫路市家島町地先	6月14日	8,757	65mm	坊勢漁協
岡山県	備前市日生町地先	6月20日	9,640	93mm	日生町漁協
香川県	さぬき市小田地先	6月24日	61,735	104mm	(財)香川県水産振興基金
	高松市女木町地先	6月20日	10,623	78mm	女木島漁協・香川県鱈流し網協議会
	東かがわ市引田地先	6月15日	190	60mm	引田漁協
西 部	小 計		7,690		
広島県	呉市音戸町波多見地先	7月15日	110	96mm	呉芸南水産振興協議会
愛媛県	今治市大浜地先	7月21日	4,600	127mm	大浜漁協・(財)えひめ海づくり基金
大分県	大分市地先	7月15日	2,980	125mm	大分県漁協大分支店

⑤受精卵放流

府県	月 日	放流場所	実施漁協等	備考 (放流卵数)
兵庫県	5月 5月15日	播磨灘 播磨灘五色沖	坊勢漁協 五色町漁協	計数せず 5.5万粒
岡山県	5月16日 5月25日 5月30日	小豆島北浦沖 水島灘 備讃瀬戸	朝日漁協 大島美の浜漁協 第一田之浦吹上漁協	9.0万粒 2.5万粒 2.5万粒
広島県	5月21日 5月28日	備後灘 安芸灘	三原市漁協 阿賀漁協	22.0万粒 極わずか
香川県	5月	播磨灘	香川県鱈流し刺網協議会	計数せず

(注) 百の位を四捨五入し、千粒単位で表示した。

○瀬戸内海における広域漁場整備及び水域環境保全の取組(平成23年度)



※水域環境保全については、農山漁村地域整備交付金へ移行した地区も含む。

## ○ サワラ漁獲量について

### 1. 瀬戸内海の漁獲量

	漁 獲 量	速 報 値
平成23年		(1,073 トン) ※
平成22年 (概数值)	1,400 トン	( 987 トン) ※
平成21年	1,381 トン	(1,036 トン) ※
平成20年	1,116 トン	( 752 トン) ※
平成19年	1,081 トン	( 803 トン)
平成18年	1,282 トン	( 865 トン)
平成17年	1,222 トン	( 726 トン)
平成16年	1,464 トン	( 878 トン)
平成15年	1,289 トン	( 971 トン)
平成14年	983 トン	( 669 トン)

[資料]

漁獲量

20年～：海面漁業生産統計調査から [農林水産省大臣官房統計部]

19年：海面漁業生産統計調査から [中国四国農政局]

18年：漁業・養殖業生産統計年報 [農林水産省大臣官房統計部]

14年～17年：瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向 [中国四国農政局]

速報値：海面漁業生産統計調査から [農林水産省大臣官房統計部]

※ 平成20年から太平洋南区の数値を追加して集計されているため、平成19年までと比較できるように瀬戸内海区のみの数値を記載。

概数值：海面漁業生産統計調査から [農林水産省大臣官房統計部]

平成22年から100トン単位での公表となった。

### 2. 瀬戸内海広域漁業調整委員会指示第17号で規制されている「はなつぎ網」、 「さわら船曳網」、「さごし巾着網」の漁獲量

区 域	漁業種類	委員会指示による制限	23年漁獲量
播磨灘	はなつぎ網	年間漁獲量40トン以下	39.9トン
播磨灘	さわら船曳網	年間漁獲量 2トン以下	1.3トン
燧 灘	さごし巾着網	年間漁獲量46トン以下	2.3トン

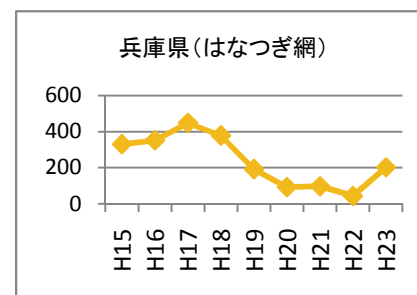
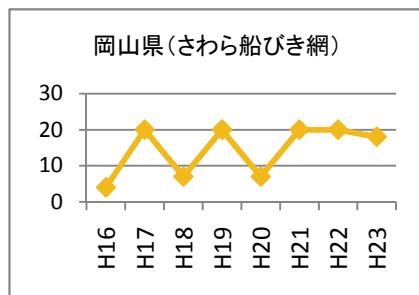
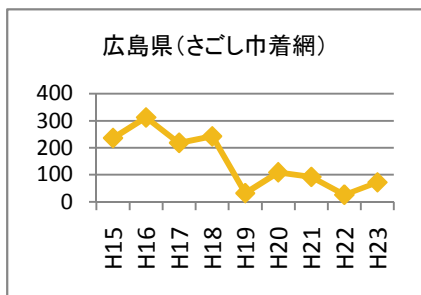
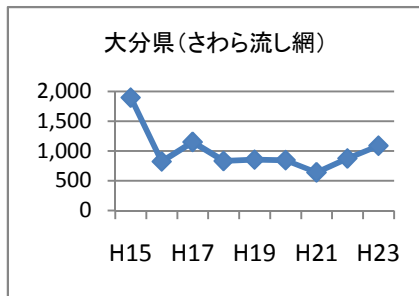
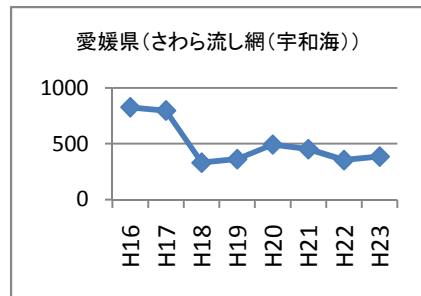
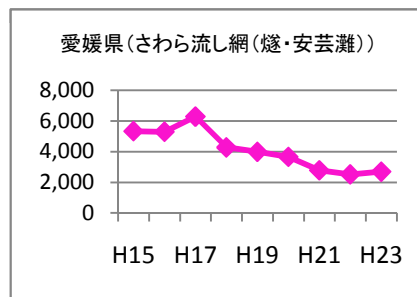
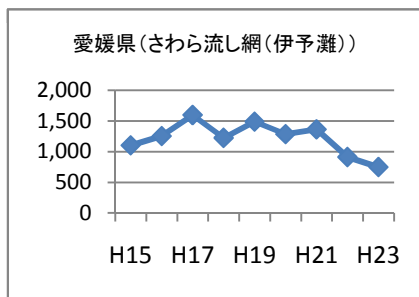
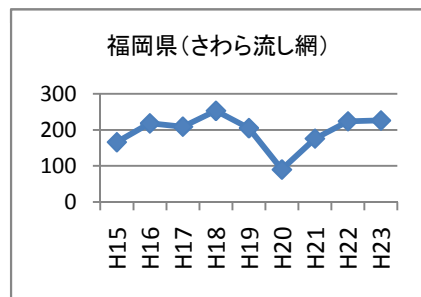
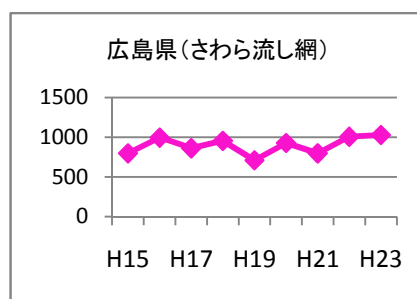
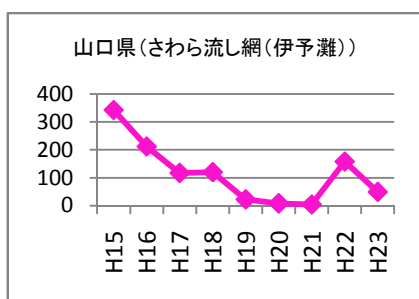
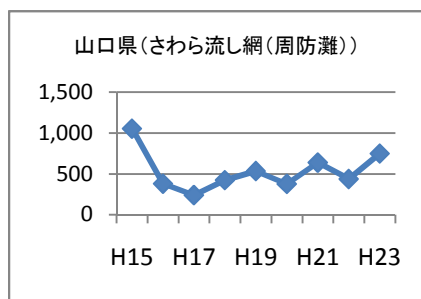
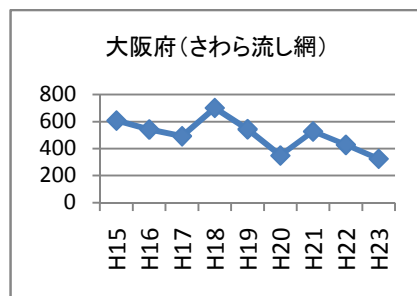
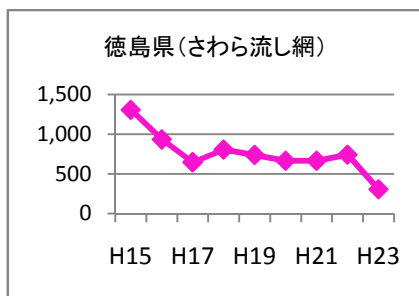
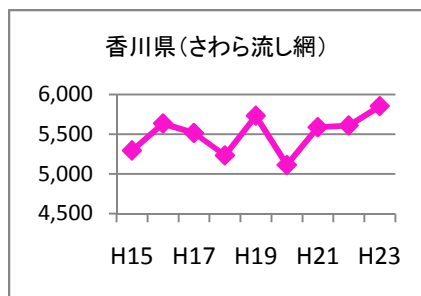
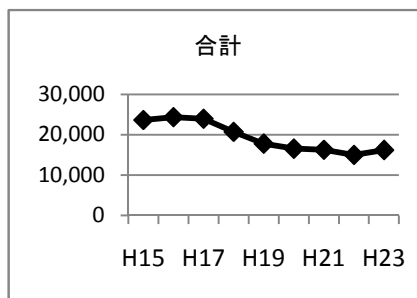
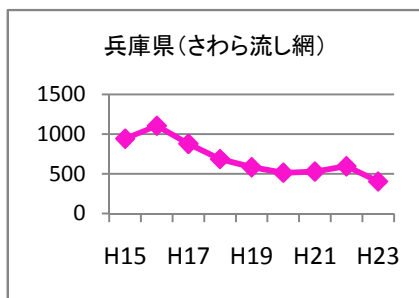
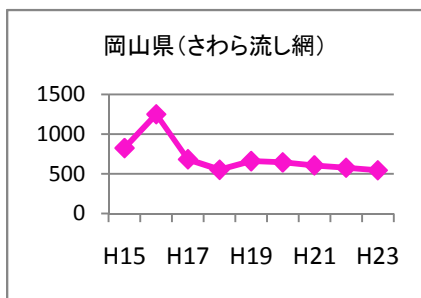
平成23年度 さわら漁獲努力可能量(TAE)管理の実施状況

単位: 隻日

	大阪府	兵庫県		岡山県		広島県		山口県		徳島県	香川県	愛媛県			福岡県	大分県	合計
	さわら流し網	さわら流し網	はなつぎ網	さわら流し網	さわら船びき網	さわら流し網	中型まき網	さわら流し網		さわら流し網	さわら流し網	さわら流し網			さわら流し網	さわら流し網	(流し網換算)
設定期間	9/1-11/30	4/20-6/15	5/6-6/15	4/20-6/15	5/1-6/15	4/20-6/20	6/1-8/31	6/16-7/31	9/1-11/30	4/11-6/15	4/20-6/15	4/1-6/30	9/1-11/30	10/1-12/31	9/1-12/31	9/1-12/31	
漁獲努力可能量 (A)	5,135	3,140	2,020	6,705	74	5,813	1,288	6,787	13,455	1,736	10,440	16,590	5,880	7,490	1,440	13,500	121,461
消化量 (B)	325	405	202	546	18	1,029	72	49	748	308	5,853	2,698	749	386	226	1,089	16,231
(B) / (A)	6%	13%	10%	8%	24%	18%	6%	1%	6%	18%	56%	16%	13%	5%	16%	8%	13%



TAE管理期間における出漁隻日数の推移



## 平成23年サワラ放流効果調査(さわらし網試験操業)結果(岡山県)

### 1 試験操業の実施状況について

サワラの種苗放流効果を把握するため、本年10月に牛窓町漁協所属の流し網漁船1隻により、播磨灘北西部において試験操業を4回行った。試験操業に用いた網の長さは10反、網目は2.7寸であった。



図1 試験操業海域

表1 試験操業網の長さ、網目等

操業年度	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
長さ	12反	12反	12反	10及び12反※	10反	10反	10反
網目	2.7寸	2.7寸	2.7寸	2.7寸	2.7寸	2.7寸	2.7寸

※1回目の試験操業時12反、2～3回目の試験操業時10反

### 2 試験操業の結果について

4回の試験操業により189尾の0歳魚、46尾の1歳魚が漁獲された。0歳魚の1日あたり漁獲尾数は47尾となり、昨年度よりも増加した。0歳魚189尾のうち9尾が放流魚で、混入率は4.8%であった。また、1歳魚46尾に放流魚はみられなかった。

表2 試験操業日及びサゴシ(0歳魚)の漁獲状況

年度	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年	
	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数
項目	10/4	1	10/16	123	10/15	20	10/9	9
	10/12	17	10/19	76	10/19	32	10/15	54
	10/19	32	10/25	19	10/22	3	10/21	134
	10/21	9	10/30	24	10/25	13		
	10/26	6						
	10/28	31						
計		96		242		68		197
CPUE	尾/隻	16.0		60.5		17.0		65.7
	尾/反	1.3		5.0		1.4		6.2

年度	平成21年		平成22年		平成23年		
	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	試験日	漁獲尾数	うち放流魚
項目	9/24	158	9/29	49	10/7	27	2
	10/1	58	10/7	22	10/11	42	3
	10/13	51	10/12	38	10/18	48	3
	10/22	33	10/18	12	10/27	72	1
計		300		121		189	9
CPUE	尾/隻	75.0		30.3		47.3	
	尾/反	7.5		3.0		4.7	

表3 サゴシ(0歳魚)の漁獲尾数、大きさ及び放流魚の混入率

項目	漁獲サゴシ			うち放流サゴシ			
	漁獲尾数	平均尾又長 (mm)	平均体重 (g)	漁獲尾数	平均尾又長 (mm)	平均体重 (g)	混入率 (%)
平成17年	96	499 (436~562)	1,068 (770~1,473)	13	524 (473~549)	1,302 (1,081~1,473)	13.5
平成18年	242	485 (364~530)	1,005 (500~1,336)	104	497 (448~530)	1,083 (823~1,336)	43.0
平成19年	68	514 (398~582)	1,219 (544~1,668)	20	532 (501~582)	1,369 (1,130~1,668)	29.4
平成20年	197	474 (432~628)	852 (583~1,850)	1	499	1,016	0.5
平成21年	300	465 (402~616)	744 (539~1,152)	14	472 (436~541)	857 (675~1,152)	4.7
平成22年	121	432 (370~518)	652 (459~1,084)	3	443 (423~462)	722 (622~859)	2.5
平成23年	189	447 (348~548)	752 (392~1,199)	9	515 (477~535)	1,057 (847~1,180)	4.8

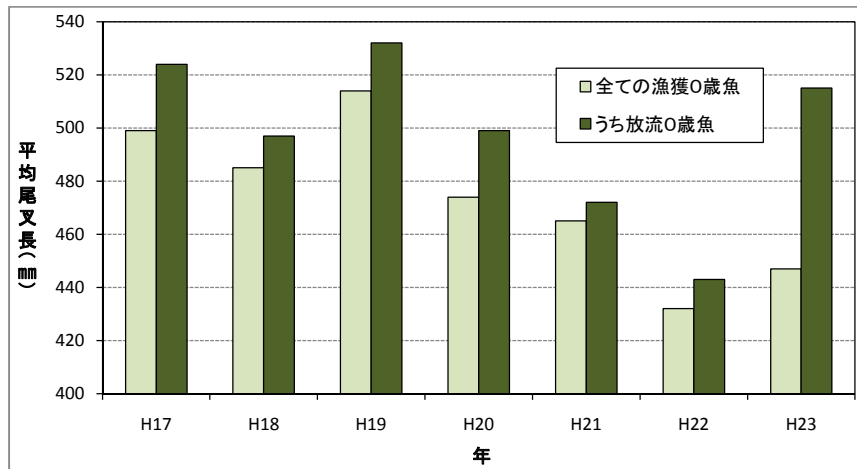


図2 秋季試験操業時におけるサワラ0歳魚の尾叉長の推移

- ・平成23年は過去の年よりも「全ての漁獲0歳魚」と「放流0歳魚」との差が大きかった。放流魚より天然発生群の方が餌料環境等が劣っていた可能性が考えられる。

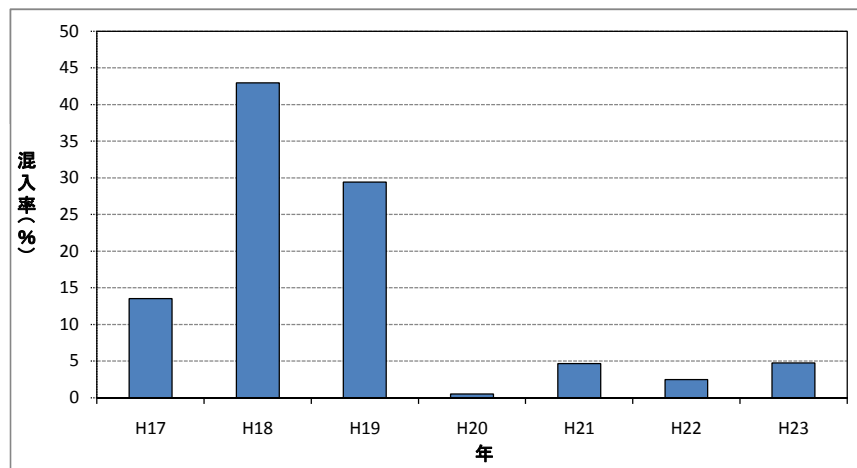


図3 秋季試験操業時におけるサワラ0歳魚の放流魚混入率の推移

- ・平成20～23年は平成17～19年よりも低めに推移した。平成20年以降は天然発生群が多かった可能性が考えられる。

# 平成 23 年度さわら流しさし網試験操業結果

香川水産試験場

## 1. 新規加入量調査

資源評価調査の一環として、平成 23 年発生群の新規加入量の動向を把握するため、試験操業を実施した。

### 1) 方法

平成 23 年 10 月 13、20、27 日の 3 日間、1 日あたり 2 隻が出漁し、図 1 に示す海域において、さわら流しさし網（目合 2.7 寸、長さ 15 反、高さ 31m）を用いて、試験操業を実施した。網入終了時刻は 16:24～16:50、網揚開始時刻は 17:15～17:38 で、網を流した時間は 45～61 分であった。

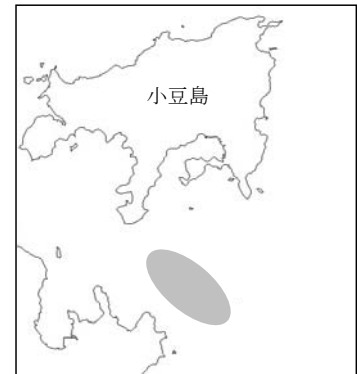


図 1 新規加入量調査実施海域

### 2) 結果

サワラは、0 歳魚 151 尾、1 歳魚 14 尾の計 165 尾が漁獲された。

0 歳魚についての結果を表 1 に示した。CPUE は、25.2 尾/隻/日、1.7 尾/反であり、昨年をやや上回った。平成 10 年以降では、平成 14 年、平成 13 年に次ぐ高い値であった。

標識魚の混入率は、4.6%であった。

表 1 新規加入量調査実施結果（0 歳魚）

年	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		平成23年	
試験日と 漁獲尾数	10/5	47	10/8	26	10/13	17	10/14	95	10/13	15
	10/15	14	10/15	49	10/20	3	10/22	9	10/20	34
	10/22	11	10/28	32	10/28	12	10/28	19	10/27	102
合計尾数	72尾		107尾		32尾		123尾		151尾	
標識魚尾数	23尾		1尾		0尾		3尾		7尾	
混入率	31.9%		0.9%		0.0%		2.4%		4.6%	
CPUE（尾/隻/日）	12.0		17.8		5.3		20.5		25.2	
CPUE（尾/反）	0.8		1.2		0.4		1.4		1.7	

## 2. 秋漁実態調査

播磨灘、備讃瀬戸において、目合 3.5 寸以上の流しさし網で秋漁を再開した場合の漁獲状況を把握するため、試験操業を実施した。

### 1) 方法

平成 23 年 10～11 月に、図 2 に示す海域において、表 2 に示すさわら流しさし網を用いて、試験操業を実施した。各海域について 2 隻が 4 日間操業した。播磨灘では、網入終了時刻が 16:54～17:24、網揚開始時刻が 18:20～19:20 で、網を流した時間は 56～130 分であった。備讃瀬戸では、網入終了時刻が 17:10～17:45、網揚開始時刻が 18:30～19:15 で、網を流した時間は 60～100 分であった。

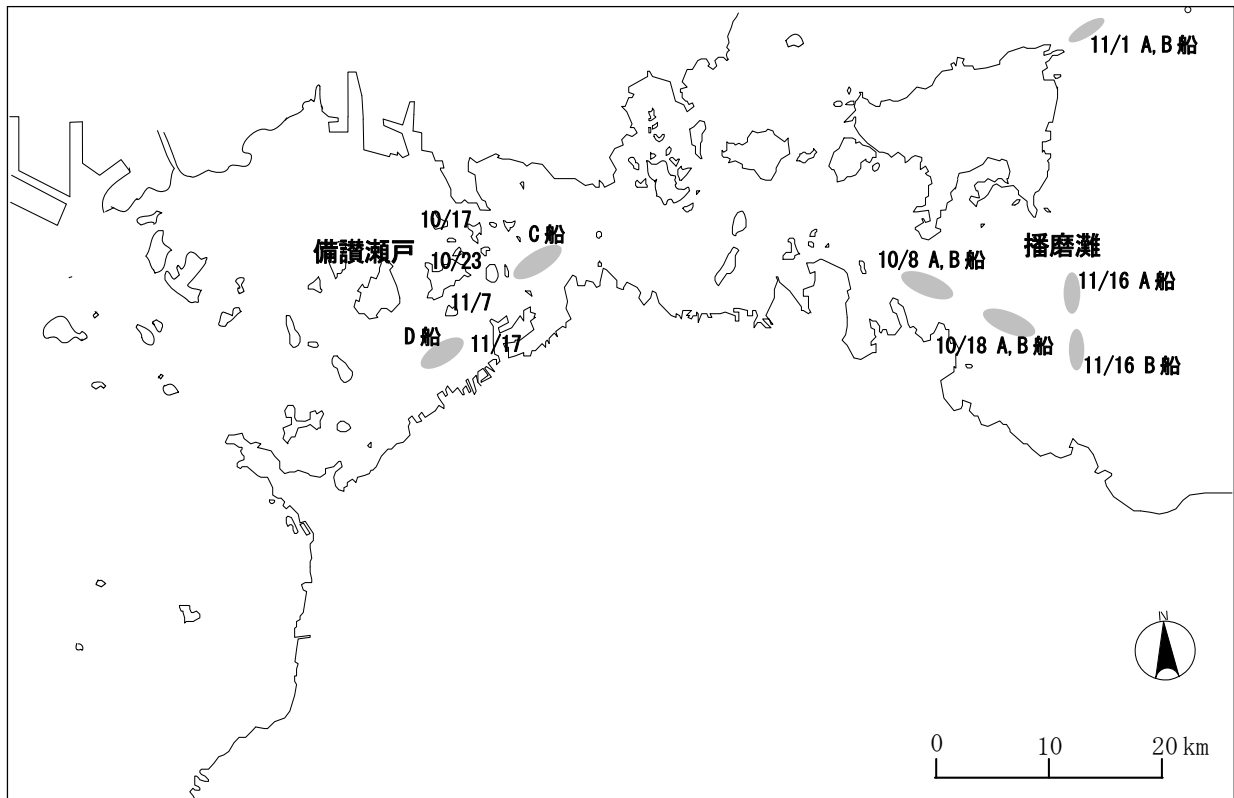


図 2 秋漁実態調査実施海域

表 2 秋漁実態調査使用漁具

海域	播磨灘		備讃瀬戸	
	A	B	C	D
試験船				
目合	3.5寸	3.5寸	3.8寸(7割) 3.5寸(3割)	3.6寸
長さ	15反	14反	680m	620m
高さ	31m	31m	24m	15m

### 2) 結果

サワラの銘柄別の漁獲尾数を表 3 に示した。播磨灘では、2 隻の 4 日間の操業により、さわら 22 尾、さごし 45 尾の計 67 尾が漁獲された。備讃瀬戸では、2 隻の 4 日間の操業により、さわら 58 尾、さごし 42 尾の計 100 尾が漁獲された。備讃瀬戸では、最終の 11 月 17 日分が半数強を占めた。

サワラの年齢別の漁獲状況を表 4 に示した。年齢別尾数は、1 歳魚が主体で、播磨灘で 79%、備讃瀬戸で 76% を占めた。次いで 0 歳魚が多く、それぞれ 16%、21% を占めた。標識魚は、0 歳魚と 1 歳魚で検出され、混入率はそれぞれ 12.5%、1.6% であった。

サワラの漁獲状況について、昨年（ほぼ同様な方法で実施）との比較を表5に示した。0歳魚、1歳魚のCPUE（尾/隻/日）は、両海域ともに昨年より高かった。特に、播磨灘における1歳魚は、11倍に上昇した。

播磨灘では、同時期に目合2.7寸による新規加入量調査を実施し、漁獲のほとんどが0歳魚であったが、目合3.5寸による本調査では、主体が1歳魚であり、0歳魚への漁獲圧は低いことが示唆された。

表3 秋漁実態調査におけるサワラ銘柄別漁獲尾数

実施月日	銘柄	播磨灘			備讃瀬戸		
		試験船A	試験船B	計	試験船C	試験船D	計
10月8日	さわら	7	0	7			
	さごし	4	1	5			
	計	11	1	12			
10月17日	さわら				2	9	11
	さごし				4	4	8
	計				6	13	19
10月18日	さわら	4	2	6			
	さごし	6	5	11			
	計	10	7	17			
10月23日	さわら				2	4	6
	さごし				6	5	11
	計				8	9	17
11月1日	さわら	4	2	6			
	さごし	12	9	21			
	計	16	11	27			
11月7日	さわら				4	2	6
	さごし				2	3	5
	計				6	5	11
11月16日	さわら	3	0	3			
	さごし	1	7	8			
	計	4	7	11			
11月17日	さわら				16	19	35
	さごし				17	1	18
	計				33	20	53
総計	さわら	18	4	22	24	34	58
	さごし	23	22	45	29	13	42
	計	41	26	67	53	47	100

銘柄区分は、魚体重2kg以上を「さわら」、2kg未満を「さごし」とした。

表4 秋漁実態調査におけるサワラ年齢別漁獲状況

年齢	項目	播磨灘	備讃瀬戸	合計
0歳	尾数	11	21	32
	尾又長(cm)	38.9~54.0 (平均 49.6)	39.5~59.4 (平均 51.9)	38.9~59.4 (平均 51.1)
	体重(g)	699~1441 (平均 1113)	560~1822 (平均 1233)	560~1822 (平均 1192)
	標識魚尾数	3	1	4
	混入率(%)	27.3	4.8	12.5
	尾数	53	76	129
1歳	尾又長(cm)	56.2~72.0 (平均 63.7)	55.7~88.5 (平均 65.9)	55.7~88.5 (平均 65.0)
	体重(g)	1500~2824 (平均 1942)	1563~3190 (平均 2206)	1500~3190 (平均 2097)
	標識魚尾数	0	2	2
	混入率(%)	0.0	2.6	1.6
	尾数	2	2	4
	尾又長(cm)	74.9~79.8 (平均 77.4)	78.5~82.0 (平均 80.3)	74.9~82.0 (平均 78.8)
2歳	体重(g)	2936~4114 (平均 3525)	3340~3880 (平均 3610)	2936~4114 (平均 3568)
	標識魚尾数	0	0	0
	混入率(%)	0.0	0.0	0.0
	尾数	0	1	1
	尾又長(cm)		78.0	78.0
	体重(g)		3420	3420
3歳	標識魚尾数	0	0	0
	混入率(%)		0.0	0.0
	尾数	1	0	1
	尾又長(cm)	76.0		76.0
	体重(g)	2800		2800
	標識魚尾数	0		0
4歳	混入率(%)	0.0		0.0
	尾数	67	100	167
	標識魚尾数	3	3	6
	混入率(%)	4.5	3.0	3.6
	合計			
	尾数	67	100	167
標識魚尾数	3	3	6	
混入率(%)	4.5	3.0	3.6	

表5 秋漁実態調査におけるサワラ漁獲状況の2箇年比較

年齢	海域	項目	平成22年	平成23年
0歳	播磨灘	尾数	4	11
		CPUE(尾/隻/日)	0.5	1.4
	備讃瀬戸	尾数	11	21
		CPUE(尾/隻/日)	1.4	2.6
1歳	播磨灘	尾数	5	53
		CPUE(尾/隻/日)	0.6	6.6
	備讃瀬戸	尾数	22	76
		CPUE(尾/隻/日)	2.8	9.5
2歳	播磨灘	尾数	1	2
		CPUE(尾/隻/日)	0.1	0.3
	備讃瀬戸	尾数	3	2
		CPUE(尾/隻/日)	0.4	0.3
3歳	播磨灘	尾数	0	0
		CPUE(尾/隻/日)	0.0	0.0
	備讃瀬戸	尾数	0	1
		CPUE(尾/隻/日)	0.0	0.1
4歳	播磨灘	尾数	0	1
		CPUE(尾/隻/日)	0.0	0.1
	備讃瀬戸	尾数	0	0
		CPUE(尾/隻/日)	0.0	0.0

魚種別漁獲量と水揚金額試算を表6に示した。サワラ以外の魚種では、ヒラ、シロザメ、マルアジ、ブリ(つばす)、マナガツオ、ガザミ、シログチ、コイチなどが混獲された。これらを含めた水揚金額は、播磨灘が合計で144,385円、1日1隻あたりに換算すると18,048円、備讃瀬戸が合計で220,087円、1日1隻あたりに換算すると27,511円となった。漁場や出荷先までの距離が遠い場合には、収益性は低いと考えられた。

表6 秋漁実態調査における魚種別漁獲量と水揚金額試算

魚種	単価 (円/kg)	播磨灘			備讃瀬戸		
		尾数	重量(kg)	金額(円)	尾数	重量(kg)	金額(円)
さわら	965	22	52.37	50,536	58	139.81	134,916
さごし	659	45	72.63	47,862	42	64.39	42,431
イダコ	730	0	0.00	0	2	0.17	120
アカカマス	103	3	0.35	36	0	0.00	0
イボダイ	676	1	0.17	115	0	0.00	0
ガザミ	1,643	11	5.17	8,494	35	9.47	15,558
カワハギ	642	4	0.71	454	2	0.45	289
カンパチ	800*	1	0.97	778	13	9.44	7,550
キチヌ	100*	7	4.38	438	0	0.00	0
クマエビ	1,621	1	0.04	65	0	0.00	0
クルマエビ	3,978	1	0.05	211	0	0.00	0
コイチ	170*	11	10.74	1,826	29	28.21	4,796
シイラ	108	6	8.68	938	0	0.00	0
シマフグ	100*	1	0.40	40	0	0.00	0
シログチ	70*	3	1.01	71	41	15.35	1,074
シロザメ	30*	88	84.53	2,536	2	3.63	109
スズキ	647	1	1.37	884	0	0.00	0
タチウオ	514	2	1.69	870	0	0.00	0
トカゲエソ	50*	13	4.13	206	6	3.02	151
ナシフグ	500	2	0.35	176	0	0.00	0
ハモ	231	2	3.44	794	0	0.00	0
ヒゲソリダイ	100*	1	0.23	23	0	0.00	0
ヒラ	50*	17	17.41	870	94	88.44	4,422
ヒラソウダ	30*	28	21.83	655	0	0.00	0
ブリ	285	52	45.93	13,090	10	11.18	3,185
ホウボウ	100*	2	0.33	33	0	0.00	0
マアジ	365	0	0.00	0	1	0.33	120
マサバ	391	3	0.50	196	2	0.79	309
マダイ	640	1	1.60	1,024	7	4.68	2,995
マナガツオ	614	50	8.28	5,086	10	1.63	1,000
マルアジ	300*	64	18.48	5,545	3	1.23	370
マルソウダ	30*	9	5.20	156	0	0.00	0
メイタガレイ	913	4	0.42	379	5	0.76	692
計		456	373.37	144,385	362	383	220,087

単価は、高松市中央卸売市場月報(平成23年10月)を参照。ただし、\*は、香川県魚市場(株)から聞き取り。

## サワラ放流効果調査実施計画書

### 1 試験操業の目的

人工生産したサワラの放流効果を把握するため、さわら流網による試験操業を行う。

なお、播磨灘においては9月1日から9月30日の間に、当漁法でサワラを漁獲することは瀬戸内海広域漁業調整委員会指示により禁止されており、試験操業に使用する漁具についても網目が10.6cm以下であるため、瀬戸内海広域漁業調整委員会への報告を必要とする。

### 2 漁法：さわら流網

### 3 実施機関：岡山県農林水産総合センター水産研究所

### 4 試験の内容

#### (1) 試験操業の時期等

平成24年9月から10月の間に5日実施予定（1隻×5日）

#### (2) 操業方法

各実施日1隻、1回操業時間(概ね17:00～22:00)

#### (3) 調査協力者：牛窓町漁協流網漁業者を予定

#### (4) 網の目合い等：2.7寸（8.2cm）

#### (5) 調査予定海域

黄島沖以東の岡山県海面



#### (6) その他

調査当日は、水産研究所もしくは水産課職員が乗船する。



## 平成 24 年度さώρα資源評価調査(新規加入量調査)実施計画書

## 1 試験の目的

資源評価調査の一環として、平成 24 年発生群のさώρα新規加入量の動向を把握するため、さώρα流しさし網を用いた試験操業を行う。

当該漁法による操業は、瀬戸内海広域漁業調整委員会指示により、網目は 10.6 センチ以上となっているが、これより小さい網目を使用するため、瀬戸内海広域漁業調整委員会への報告を必要とする。

## 2 試験漁法

さώρα流しさし網

## 3 調査実施機関

香川県水産試験場

## 4 試験の内容

## (1) 試験操業の時期と回数

平成 24 年 9 月から同年 10 月に、延べ 6 日隻 (2 隻×3 日) を予定。

## (2) 調査協力者

鴨庄漁協所属の漁業者

## (3) 使用漁船

さώρα流しさし網を操業可能な漁船 2 隻を予定。

## (4) 使用網

網目 2.7 寸 (8.2cm)、長さ 15 反

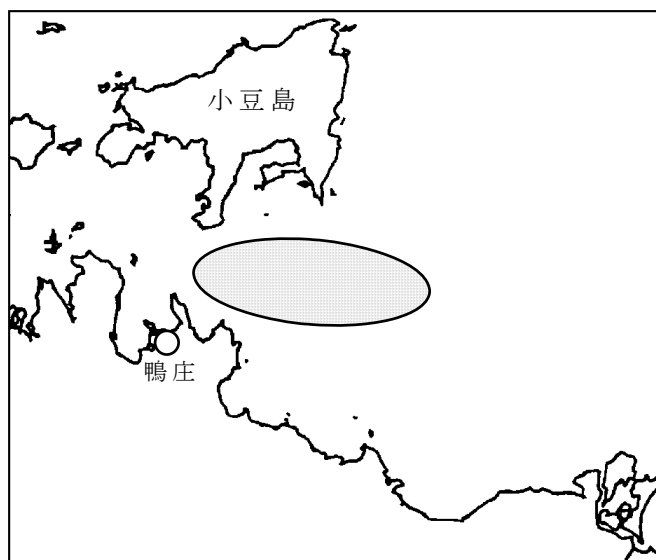
## (5) 調査予定海域

地蔵埼と大串埼を結んだ線以東の香川県海面

## (6) その他

香川県知事による特別採捕許可により実施。

調査当日は、水産課又は水産試験場職員が乗船。



調査予定海域